



2024年9月24日

各 位

会 社 名 三櫻工業株式会社
代 表 者 取 締 役 社 長 竹田 玄哉
(コード番号：6584 東証プライム)
問 合 せ 先 執 行 役 員 松本 安生
ガバナンス統括本部長
(TEL. 03-6879-2622)

ステークホルダーの皆さまから頂戴した質問とそれに対する回答(2025年3月期第1四半期決算)

2025年3月期第1四半期の決算発表(2024年8月6日)以降に実施いたしました、機関投資家・アナリストとの個別面談で頂戴した主な質問とそれに対する回答を以下の通り開示いたします。

本開示はステークホルダーの皆さまへの情報発信の強化とフェア・ディスクロージャーを目的として、説明会やIR面談等の場で頂戴した質問とその回答を開示するものです。また、理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1. 2025年3月期(以下、「今期」という。)の1Qの結果だけを見ると対通期予想比での進捗は芳しくないように見えますが、1Qの業績をどのように評価しているのでしょうか。

A1. 北南米セグメントの好調が中国セグメントの不振を補うなど地域セグメントごとに波はありますが、期初の計画通りの順調な滑り出しであると評価しております。例年の傾向では売上・利益ともに下期に若干程度偏重する傾向にあるため、1Q決算発表時点の通期予想に変更はございません。

Q2. 日本セグメントは、2024年度3月期(以下、「前期」という。)の4Qから減速気味に見えますが、国内における自動車メーカーの認証不正の影響があったのでしょうか。

A2. 認証不正の影響は一定程度ありましたが、影響は軽微でした。国内は昨今の賃上げの影響が大きく、今後価格転嫁などでリカバリーを図っていきたいと考えております。

Q3. 北南米セグメントが今期1Qから近年にはない好調な滑り出しを見せていますが、何が要因として挙げられるのでしょうか。2Q以降も好調さは維持できるのでしょうか。

A3. 前期までに経営基盤が安定し、特に北米における日系自動車メーカーの好調な販売状況や円安による為替換算効果、価格転嫁の影響などが功を奏し、1Qから好調な滑り出しを見せております。今秋にアメリカ大統領選挙が控えるなど不透明な状況が控えておりますが、今後も生産量が安定傾向にあるため、2Q以降も安定した収益が見込めるものと考えております。

Q4. 中国セグメントは、日系自動車メーカーの苦戦と同様に回復の兆しは見えないのでしょうか。

A4. 1Qは春節などの季節性による稼働率低下や日本車の販売不振も相まって、想定以上の落ち込みを見せております。現時点で回復の兆しは見えていないため、採算性の維持を目的に、さらなる価格交渉や本格的な構造改革などの対応に着手しております。

Q5. 今期は成長投資を前提とした「意思ある踊り場」に位置付けておりますが、設備投資は計画通り実施できているのでしょうか。特定の四半期に費用計上が偏ることはあるのでしょうか。

A5. CAPEXの進捗は計画比でややスローながら、新たな組織の構築やそれに伴う採用増、研究開発費の計上等を計画どおり実施しており、特定の四半期に費用計上が偏ることはありません。

Q6. 前期から価格転嫁が業績に寄与しているようですが、今後も価格転嫁の余地があるのでしょうか。

A6. 賃上げに伴う人件費増や当社の調達先からの値上げ要請をはじめとしたコスト増に応じて、引き続き価格転嫁の交渉を進めていく考えです。

Q7. データセンター向け水冷冷却装置の足元の商談状況を教えてください。今期の売上は見込めるのでしょうか。

A7. 現時点ではまだ受注獲得には至っておらず、今期の業績への貢献は現在のところ見込んでおりません。ただし、足元でさまざまな業種の企業から数多くの引き合いをいただいております。営業・提案活動を鋭意展開しております。受注に至った際には、情報開示により皆さまにお知らせする予定です。

以上